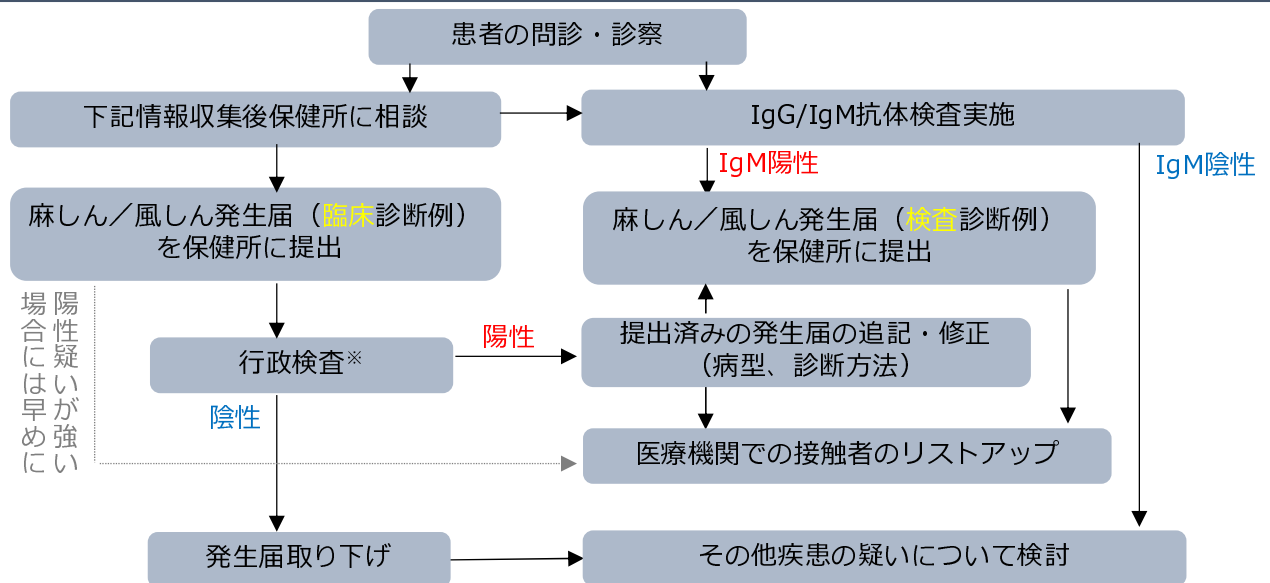


麻しん／風しん

5類感染症

医療機関の対応の流れ



※行政検査は感染症法に基づく検査のため、必ずしもできるわけではありません。

★不明点がある場合には保健所にご相談ください。

届出

- 臨床診断時点、もしくは検査による確定診断後に診断した医師より発生届提出（診断後直ちに）（参考）

学校保健安全法上第2種の感染症に定められており、麻しんは解熱した後3日を経過するまで出席停止、風しんは発疹が消失するまで出席停止とされている。

医療機関が問診・診察時に確認する情報

- 発症日からの症状と経過

麻しん（潜伏期間：10～12日）	風しん（潜伏期：14～21日）
発疹：癒合傾向あり （顔面・頸部→体幹・四肢）	3日程度の発疹：癒合傾向なし （顔面→体幹→全身）
二峰性の発熱	発熱
カタル症状 （咳嗽・鼻汁・結膜充血）	リンパ節腫脹 （耳介後部・後頭部・頸部）
コプリック斑	

- 患者居住地
- 現在の所在地（入院・自宅）
- 発症前の所在地（自宅、施設、病院）
- 海外渡航歴
- 検査結果（IgG、IgM抗体結果）
- 鑑別検査の結果
（溶血性連鎖球菌、伝染性紅斑、エンテロウイルス感染症、伝染性単核球症、薬疹等）
- 麻しん、風しん患者との接触歴
- 本人と接触者の予防接種歴、罹患歴
- 同居家族等の有無
- 家族内の未就学児や抗がん剤治療等免疫低下リスク有無

接触者の健康診断

- 感染可能期間

	麻しん	風しん
感染始期	症状出現の1日前（発疹出現の3～5日前）	発疹出現前1週間
感染終期	発疹消失後4日または解熱後3日	発疹出現後1週間

- 感染可能期間に麻しん／風しん患者の使用した院内ルートを確認。
- 院内ルート上で空間共有（壁や扉での区切りがない場所）した職員や入院患者、外来患者（付き添い者含む）、外部業者等名前がわかる人全てをリストアップし右記確認。

- 麻しん／風しんの既往歴
- 予防接種歴
- ハイリスク（透析等基礎疾患、妊娠、免疫低下）の有無
- 患者との接触状況（日付、場所、接触内容、累計接触時間）
- 接触者の調査時の状態（症状の有無）

- 麻しん／風しん確定患者との最終接触日を0日目として21日間、症状出現がないか健康観察。
- 麻しんの場合、接触者でワクチン接種歴や罹患歴がない人は陽性者との接触3日以内に予防接種で発病予防が可能。